



# JAICOH NEWS LETTER

第 43 号 2004 年 4 月 1 日 発行

歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

事務局: 〒341-0003 埼玉県三郷市彦成 3-86 Tel&Fax: 048-957-2286

発行: 深井稜博 編集: 沼口麗子 現会員数: 245 名

## 私の国際保健との出会いと、開発教育 (Development Education) の必要性

日本大学松戸歯学部衛生学教室  
助手 有川量崇

近年、「開発教育」という教育活動が、欧米諸国において普及しつつあり、開発教育とは、NGO が取り組んでいる教育活動の一つである。開発教育協議会は開発教育を「私たち一人一人が、開発をめぐる様々な問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、ともに生きることの出来る公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動」と定義している。これは、単に知識を学ぶことではなく、南北問題、保健問題を自らも関わっている問題として捉え、望ましい地球社会のあり方を考え、その中から自分を含めた社会を考えられるようにすることを目的としている。

私が現在、国際保健活動に関わることができるようになったのは、この開発教育を早期から始めていた JAICOH との出会いであると確信する。もちろん他の要因も影響しているが、やはり、学生時代に JAICOH が企画したカンボジアスタディーツアーに参加したことがこの世界に足を踏み入れた最も大きな要因であると考えられる。10 数年前の、カンボジアで体験した経験により、考え方が大きく変化した。特に、あの時接した現地学生の学問に対する姿勢は、私自身が自己研鑽をするにあたり、未だに強く影響をうけている。

本学部に国際保健研究会が発足して 3 年になる。発足当時は 10 名であった研究会も、今や 45 名の会に発展した。これは、今の若い医療を志すものが、食欲にナニかと接しようとしている証であると思う。この研究会が持続的な開発教育の場として発展していくことを期待しているとともに、私自身も、国際保健とは何か？グローバル化とは何か？本研究員とともに、国際交流を通じて学んでいきたいと思っている。

最後に、人は一生を通じて様々なことを学ぶものである。国際交流を学生らとともに学ぶことによって、様々な分野のことを知るチャンスが多くなり、人としての幅がより広がったように感じる。是非、この国際交流を楽しんでいる若き学生らと交流しつつ、自己研鑽したい医療界の先輩方！この研究会参加をお勧めします。



### 有川量崇先生: プロフィール

鹿児島県出身

日本大学松戸歯学部 平成 8 年度卒業

日本大学松戸歯学部 衛生学教室 助手 平成 10 年 10 月～現在

米国コロンビア大学公衆衛生学部 平成 12 年度留学

# 活動報告 その1

## KADVO フリークリニック

### 菊池陽一(きくちよういち)先生/たてやま歯科クリニック

フィリピン国農業省での技術指導を初め、カンボジア歯科保健、カンボジア難民、クルド難民、タンザニア母子保健、フィリピン国セブ島フリークリニック、その他NGOで約15年間国際協力活動に携わり、日本国内では3大ドヤ街の1つ横浜寿町で外国人不法労働者支援、障害者施設の作業所支援などを行う。2000年「たてやま歯科クリニック」開業、現在は診療を中心に、村おこし事業、外国人花嫁支援、障害者施設歯科室、特養老人ホーム内での口腔ケア、フィリピン歯科保健プロジェクトや里親奨学金制度などのNGO活動を行っている。

### KADVO (Kanagawa Alliance of Dental Volunteers

Overseas: 神奈川県海外ボランティア歯科医療団)は1984年よりフィリピン・セブ島で20年間、タイ王国で6年間、無料歯科診療を中心に活動。4年前よりフィリピン・セブ島の小学校を重点に日本から歯科衛生士を常駐させた歯科口腔衛生教育プロジェクト、3年前よりフィリピン・ネグロス島で口唇口蓋裂プロジェクトを立ち上げた。

20周年を迎えた昨年、歯科ボランティアにとらわれない広範囲な活動を通じて東南アジアの恵まれない子供たちに貢献することを目標にかかげ、当団体の活動対象国において里親奨学金制度を開始した。歯科分野から離れた国際協力活動の場を広げて歯科関係以外のKADVOの会員数を増やすのがねらいだ。

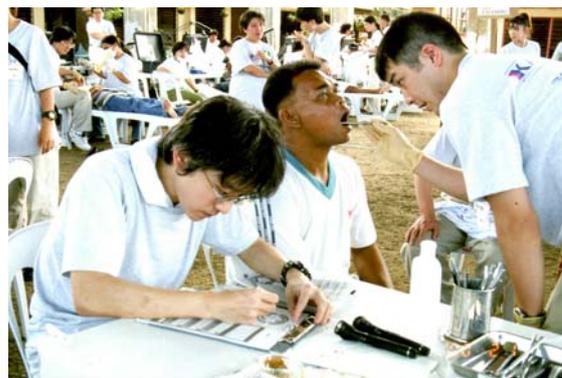
今年の2月は21回目、4泊5日のセブ島のフリークリニックは60人以上の日本からの参加者(歯科医師、衛生士、各歯科医大教授や講師、会社員、学生、飲食店経営者、歯科機材経営者等、歯科関係以外の参加者が年々増加傾向)、現地在住の日本人、現地の歯科医師や教師、村役場関係者など総勢100人以上のスタッフが参加しての楽しい年1回の祭りだ。



小学校での健康教育

今回は3ヶ所に分かれ、朝5時半起床、炎天下での活動。1ヶ所目はスラムの小学校での治療主体、2ヶ所

目は市内小学校での歯科予防教育、3ヶ所目はデンタルバスを利用しての山村部での歯科治療と予防を行った。治療主体の活動は予診、充填、外科、歯周、消毒とレントゲン、機材管理など6班に分かれて、フィリピン人との共同作業であり、さらに、今回から現地人からの要望が高かった補綴班(現地歯科技工士10人)が加わり、義歯製作が大幅に増えた。歯科治療1231人、63人の義歯装着、300人の口腔診査、500人の予防指導を行った。



予診風景

今回の特徴は、日本からの参加者年齢層の幅が広いこと(下は消毒班の小学生、上は70歳)であり、毎年、飲食店経営者(今までに、寿司屋、ラーメン屋、天婦羅屋さん等が現地で料理、今年はカレー屋さんが美味しいカレーを昼食とパーティーで作った)や会社員、主婦、患者さん等多彩な顔ぶれが参加する。

これからも、職業や年齢に関係なく、誰でも参加出来るように門戸を広げ、楽しい思い出を作っていただけのようなプロジェクトにしたいと思っている。

## 活動報告 その2

古川さやか(ふるかわさやか)先生／東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野  
H.15年北海道大学歯学部卒業。在学中にネパール歯科医療協力隊15次隊参加。

バンコクの12月。冬とはいえ、昼になると気温は26度まで上がる。夜には、王様の誕生日を祝う数々のネオンが明るい輝きを放っている。タイで一番過ごしやすい季節であり、王様を敬う人々の心がよくわかる時期である。

タイ訪問の目的のひとつは、大学院先輩のトンチャイ先生のフィールド見学であった。見てきたことを少しご紹介したい。トンチャイ先生のフィールドはバンコクから車で3時間程のところにある **U-Tong** である。日本から一足先に帰国していたトンチャイ先生は往復6時間の道のりを毎日往復し、乳幼児の歯科疾患(う蝕・フッ素歯牙症)および生活習慣の調査を行っていた。

訪れたヘルスセンターでは看護師・助産婦・保健士の3名がスタッフとして働いており、9つの村6100人を対象に保健活動をしている。普段は妊産婦健診や、労働からくる筋肉の痛みの治療などが主に行われており、通常は乳幼児の歯科健診は行われていないが、トンチャイ先生のプロジェクトにより、ここ2年は乳幼児の歯科健診が行われている。



保健センター



検診中の古川さん(左)

タイには井戸水のフッ素濃度の高い地域がいくつかあり、この地域もそのひとつである。そしてタイの乳幼児う蝕の増加にもれず、乳幼児う蝕の多い地域である。働き手である両親ではなく、祖母などが子供の面倒を見ることが多いことはその要因のひとつであり、実際、健診に孫をつれてくるおばあちゃんや、もう卒業してもよいと思われる幼児が哺乳瓶をくわえたまま来ている風景もみられた。タイの乳幼児う蝕の原因は社会的な要因も多く存在し、子供たちの永久歯にフッ素歯牙症が伴われることもあるだけに予防策を考えるのが難しいと考えられた。

どの国であっても、その地域の人々の状況をきちんと把握し、そのための有効な手段を考えるのは非常に難しい。今回のタイでの見学は時間の制限があり、何人か子供の健診の様子を見て、ヘルスセンターの人とお話をするにとどまり、十分に状況を見ることができなかったのが非常に残念であった。が、トンチャイ先生のような留学生を通して、異文化の中にある乳幼児う蝕をともに考え、学び合うこととしての国際協力の大切さが見えたように思う。

## 学生さんの『声』

相田潤(あいだじゅん)さん／北海道大学歯学部大学院歯学研究科健康科学講座予防歯

科学分野 2003年北海道大学歯学部を卒業。学生時代に入っていた探検部で海外に行く機会があり、国際保健に興味を持つ。JAICOHで多くの方々に出会ったことで、大学の同級生とともに冒険歯科部(仮称)を設立。モンゴル歯科探検隊や冒険歯科部の企画したバングラディッシュツアーに参加した他、日本語と外国語の歯科パンフレットを作成。卒後1年間は国立保健医療科学院で学んでいる。

私は1年間、国立保健医療科学院で勉強をさせていただきました。昨年、北海道大学歯学部を卒業、同大学院予防歯科に進学した1年目のことです。科学院のカリキュラムを終え、今年の4月からは北海道に戻ることになります。

公衆衛生を学ぶ科学院では、周りの学生は20歳代～50歳代までの保健師、医師を中心に栄養士、薬剤師、社会福祉士という中、唯一の歯科医師でした。そのため、精神や栄養、ソーシャルワークなどの他分野ではどのようなことをやっているのかを聞き取り、反対に歯科ではどのようなことをしているのかの説明をする機会に恵まれました。また、「フッ素っていいの?」という質問を受けることが多く、これを説明するための発表の機会もあり、授業以外で多くを学ばせていただきました。

科学院のカリキュラムは、授業をベースに、精神障害者施設などへの見学会のイベント、国際保健に関する集中講義、チームを組んでの合同での調査と論文作成、個人での論文の作成といった具合で目まぐるしく過ぎていきます。

授業は、公衆衛生(保健所職員向けのもの多い)、疫学を中心に、統計、感染症や精神、歯科や栄養と幅広く、グループワークやセミナー形式の授業も多く、新鮮な経験でした。多彩な分、広く浅くなるのは否めませんが、疫学、統計の授業は時間も長く、得るものが大きかったと思います。チームを組んでの調査は、留学生6人と日本人3人での異色のチームに入りました。1ヶ月以上にわたり、在日外国人を対象とした健康診断を行うNGOと合同で、在日外国人の保健行動に関する調査を行いました。アフリカの3カ国からの保健医療従事者である留学生との合同調査は、チーム内での、言語よりもむしろ文化の壁によるコミュニケーションの困難さに直面しました。私が公衆衛生に興味を持ったのは、学生時代にモンゴル歯科探検隊に連れて行っていただいたことがきっかけでしたが、この時の隊の方々の苦労や努力を、今回の経験で少しは推し量ることが出来たように思います。

今後、残念ながら存在する世界での地域差、国内での地域差にアプローチすることを目指して進んでいきたいと思っています。



国立保健医療科学院の精神障害者施設の見学会にて

## 第19回 日本国際保健医療学会東日本地方会が開催されました

2004年2月28日(土)、東京大学医学部図書館3階において東日本地方会が開催されました。特別講演は黒岩宙司先生(東京大学大学院国際保健計画学)が「国際協力事業の評価:援助協調/多国間協力の流れの中で」というテーマで行ないました。ODAの歴史的考察を行ない、日米同盟から2004年の自衛隊のイラク派遣までの説明があり、日本の援助様式の未熟さを指摘、そして成功例としてご自身が関わったラオスのポリオ根絶事業をあげ、質の高いモニタリングの必要性を説かれました。今後援助のマルチドナー化は進むと予想されるので、この様式に関するモニタリング・評価手法(M&E)の研究を進め、日本が国際保健政策策定の上流に関わりかつ日本に先端の情報を送るシステム構築の必要性を話されました。招聘講演は李燕先生(雲南省婦幼保健院)が「中国雲南省の少数民族の母子保健の改善事業」について話されました。16項目の一般演題のあと、「多民族文化社会(在日外国人)における母子の健康」というテーマでシンポジウムが行なわれました。現在日本は70人に一人が外国人と言う状況で、医療のニーズや教育現場の実態調査やニーズについての報告がありました。厚生労働科学研究プロジェクトの方々の研究報告でした。在日外国人の大きな問題の一つは言葉ですが、大阪大の中村安秀先生から4月から医療通訳の講座が大阪大に開設されるという報告がありました。今回は約80名の参加者があり、活発な意見交換が行なわれました。次回第20回の東日本地方会は山形市で開催予定です。(文責:有川量崇)



### 編集後記

春爛漫です！会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？

JAICOHのニュースレターは、歯科ペンクラブの手を離れて単独発行になって二号目になりました。拙い編集ですが、楽しく読んでいただけたでしょうか。

ニュースレターは、会員、会員外の方を含めて国際歯科保健医療協力の情報交換の場です。何か伝えたいことがあれば遠慮なく紙面を利用してください。またこちらから、原稿をお願いすることがあると思いますので忌憚のない意見を寄せて下さい。

4月になり新年度始まりました。会員の皆様も、職場の異動、学校卒業など変化の多い大変な時期です。ニュースレターも新たな気持ちで取り組みたいと思いますので今後ともよろしく願いいたします。

(沼口、楢崎、梁瀬)

# 第 15 回歯科保健医療国際協力協議会 総会および学術大会のご案内

第 15 回歯科保健医療国際協力協議会総会および学術大会を、下記のとおり開催致します、会員多数のご参加およびご発表をお待ちしております。

JAICOH 会長 深井穂博、第 15 回大会長 鈴木基之

- ◆会期 2004 年 7 月 4 日（日曜日）午前 9 時半受付開始、午後 5 時より懇親会
- ◆場所 昭和大学歯科病院臨床講堂（6F）東京都大田区北千束 2-1-1
- ◆最寄駅 東急目黒線洗足駅下車徒歩 2 分（目黒洗足間約 8 分）、東急大井町線北千束駅下車徒歩 5 分
- ◆会費 千円（資料・懇親会費を含む）
- ◆演題の申込要領
  1. 一般演題は 4 日午後を予定しています。
  2. 演題は国際協力に関連したものに限ります。
  3. 発表形式・時間 口頭発表のみ、発表時間は 1 題につき講演 10 分質疑 5 分、スライドプロジェクターは 2 基使用可能（左右のスライド枚数は同数としてください。）
  4. 発表者は本会会員に限ります。未入会の方は当日、会場にて入会手続きを行ってください。
  5. 演題の申込は下記の演題申込書に必要事項記入のうえ 6 月 14 日までに下記申込先宛て郵送にて御申込ください。
- ◆申込締切 2004 年 6 月 14 日（月）必着
- ◆申込あて先 〒145-8515 東京都大田区北千束 2-1-1 昭和大学歯周病学教室内  
第 15 回 JAICOH 総会事務局 大会会長 鈴木基之

## 第 15 回歯科保健医療国際協力協議会 一般演題申込書

演題名

発表者の氏名（連名の場合、発表者名の前に○印を付けて下さい。）

発表者の所属

発表者の連絡先

住所：〒

電話：

FAX：

e-mail：

楷書体ではっきりご記入下さい。